

氏名	神原 由依
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6764 号
学位授与の日付	2023 年 3 月 24 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Association between Early Corticosteroid Administration and Long-term Survival in Non-Infectious Pulmonary Complications after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation (同種造血幹細胞移植後非感染性肺合併症に対する早期ステロイド投与と長期生存の関連性)
論文審査委員	教授 座間味義人 教授 鶴殿平一郎 准教授 岡崎幹生

学位論文内容の要旨

同種造血幹細胞移植 (HSCT) 後の非感染性肺合併症 (NIPCs) は、予後不良の原因となる。二次治療が確立されていないため、一次治療の効果を最大限に高めることが重要である。我々は、HSCT を受けた患者 393 人のデータを 10 年間分析した。NIPCs 37 例は、特発性肺炎症候群、閉塞性細気管支炎、特発性器質化肺炎を含む間質性肺疾患と診断された。このうち 18 例は死亡し (死亡群)、19 例は観察期間中も生存していた (生存群)。NIPCs の診断からプレドニゾン換算で 1 mg/kg/day 以上のステロイドを初めて投与するまでの期間の中央値は、死亡群が 9 日、生存群が 4 日と有意差が認められた ($p=0.01$)。さらに、これらの症例をプレドニゾン投与 7 日以内と 8 日以降のグループに分けたところ、7 日以内のグループは 8 日以降のグループに比べ、NIPCs 診断後の生存率が高い傾向が見られた ($p=0.06$)。我々の解析は、NIPCs におけるステロイド治療の早期開始と長期生存の関連性を示した。

論文審査結果の要旨

本研究は、同種造血幹細胞移植後に発症する非感染性肺合併症 (NIPC) とその後の疾患重症度との関連を検討した。

同種造血幹細胞移植を受けた 393 人の患者のうち、37 人が NIPC と診断された。NIPC と診断された患者を分析し、コルチコステロイドの初回投与までの日数が発症後の死亡に関連することを認めた。さらに、コルチコステロイドを 7 日以内に投与された患者は 8 日以降に投与された患者と比較して、NIPC 診断後に生存する可能性が高いことが示された ($p=0.06$)。

委員からは、NIPC と感染性合併症の判別の基準や、早期にステロイドを開始するための方策についての質問があった。本研究者は、先行文献における情報や研究の限界を元に今後の展望も交えて回答した。

本研究は、同種造血幹細胞移植後の NIPC に対する治療指針に寄与する重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。